

30年4月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 4月1日～ 30年 4月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/4月	5月	6月
伐採動向	スギ	8.3	△ 16.7	25.0
	ヒノキ	30.0	0.0	10.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	16.7	50.0	16.7
出荷・販売動向	スギ	0.0	△ 20.0	20.0
	ヒノキ	12.5	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 66.7	△ 16.7	33.3
手持立木在庫動向	スギ	△ 20.0	△ 20.0	20.0
	ヒノキ	12.5	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 66.7	△ 33.3	△ 16.7

・スギの伐採動向は4月の増加から5月は減少、6月は再び増加に。ヒノキは4月の増加から5月は横ばい、6月は再び増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。エゾ・トドマツは3カ月連続増加。

・スギの出荷・販売動向は4月の横ばいから5月は減少、6月は増加に。ヒノキは4月の増加から5月、6月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。エゾ・トドは4月、5月の減少から6月は増加に。

・スギの手持立木在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキは4月の増加から5月、6月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。エゾ・トドは3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・トドマツ間伐を執行中。天候に恵まれ融雪が例年より早く進み、伐採作業が順調に推移している。伐採動向は増加である(北海道)。
・4月は伐採予定なし。5月以降、生産請負事業が受注できれば請負事業の伐採、不落であれば立木手持ち在庫の間伐を再開する予定(北海道)。
・スギ、カラマツともに伐採量は多い(東北)。
・スギ、ヒノキの主伐を実施中(東北)。
・生産請負事業を開始、伐採量は増加した(中部)。
・スギ、ヒノキの主伐を実施中。カラマツはなし(中国)。
・支障木撤去の伐採作業が増加し、通常の間伐作業が減少している(中国)。
・国有林の間伐事業が主力。年間8,000m³程度の生産請負事業の発注が遅れ、6月にずれ込む予定。現在は造林事業に主力をおいている(九州)。

(出材・販売動向)

・出材は林道が融雪期で通行できないため、当月と翌月は減少である。工場は土場在庫が少ないので購買意欲はある(北海道)。
・スギ、カラマツともに玉不足の傾向あり。強気の販売(東北)。
・出材調整なく、自社トラックにて順調に出材している(東北)。
・請負事業のみのため販売は無し(中部)。

(手持立木在庫)

- 素材生産事業が進んでいるので、手持立木在庫はやや減少で推移している（北海道）。
- 手持在庫はやや減少（東北）。
- 手持立木在庫は無し（中部）。